

桐 蓄

編集発行 第4号
 群馬県立桐生工業高等学校
 同窓会事務局 編集部
 群馬県桐生市西久方町1-1-41
 TEL 0277 (22) 7141
 印刷 湯浅印刷有限会社



ゴルフ大会 開催される 十一支部優勝

同窓会長 五十嵐健雄

燃えたつ紅葉に野山の錦一段と美しく秋の深まりを感じる季節となりました。

同窓会員の諸兄には益々ご健勝の事とお慶び申上げます。

「桐蓄」第四号の発行に当り一言ご挨拶申上げます。

運営方針の一つに支部設立の促進と支部内外のより一層の交流、交歓を図ることを挙げております。

市内支部の設立は間もなく完了致します。そこで支部間の交流に重点を置きゴルフコンペをご案内致しました。元

同窓会長の下山廠司実行委員長のもと百六名の参加を得て

天気にも恵まれ盛大に開催され、嬉々の内に交歓の実を果す事が出来ました。

引続いて、市外支部の設立にも鋭意努力をしております。

本同窓会は在校生にも出来る限りのご援助を申上げた

いと存じ、桐生工業高等学校部活動振興規程を作り、昨年

喜れの全国高等学校駅伝競争大会に、此夏の全国高校総体の

出場の選手諸君に金一封を贈り激励して参りました。

又 五月一日の開校記念日

の記念講演の講師に昭和二十

三年卒業生の大坂で活躍して

いる非破壊検査(株)社長の

山口多賀司氏を紹介申上げ、

生徒諸君に夢と希望と感動を

与えることが出来ました。

今春、樽井校長先生がご栄

転なされました。本校及び同

窓会の発展に大いに寄与して

戴き、その多大の功績に深く

感謝致しております。

新しく本校の同窓生でありま

す小林季二校長先生を迎える

事が出来ました。学校は勿論

のこと同窓会に寄せる情熱は

素晴らしきものがあります。



星野常男 顧問

母校に赴任して

学校長 小林季二



に感謝いたしております。

また、校内状況では、施設や設備の更新と新規導入について、その変わり様に驚きすら感じました。これらの詳細

同窓生各位に、「只今、帰

つて参りました。」と、ご報

告申し上げます。本校に長く

在職し、留守にしたのが太工

三年、藤工三年、たつたの六

年間、しかも、本校卒業の私

でありますから、どうしても

こんな書き出しになりました。

しかし、この六年という期

間は、私をして「今浦島」に

するほど母校の変容がありま

した。

同窓会を一つ例にとつても、

私が事務局に関わっていた時

より、同窓会事務局の組織化

がより強固となり、市内の殆

どに支部を結成、その活動も

着実に進めております。その

努力を評価するとともに、歴

代会長をはじめ役員、当該地

区の同窓諸氏の「指導」ご支援

を

ら感じました。これら

については、前任校長が会報

二・三号で紹介されてお

り、略いたしますが、着任して真

つ先に「新設・染織デザイン

科」の最新デザインシステム

を利用して何着かのTシャツ

を作ってみました。」と

「とべ」

走れ 桐工！」「かつ飛ばせ

桐工」等々いろいろの図柄と

配色とに活用したわけであり

ます。

校長が変われば、学校が変

わる、ましてや母校出身の私

であり、その使命感を「とべ

走れ 桐工！」のスローガ

ンに託し、着任早々生徒に披

露、奮起を促しました。

笑話のような余談ですが、

夏の高校野球県予選では父兄

の要望で前面に「かつ飛ばせ

桐工」背中に「とべ・走れ桐

工」のTシャツ約二百着を自作提供して応援しました。ところが、一・二回戦を勝ち進み三回戦の相手チーム樹徳高校に戸部投手がいたのには参りました。とべ（戸部）に走られたのじゃ困るといふ。急遽一日で「押せ押せ」を「とべ」の上部にプリントして急場をしのぎました。

紙面の都合で、語り尽くせませんが、私の仕事は微力ながら母校発展のため粉骨碎身の覚悟で職務に精励することと心得ております。同窓各位の、一層のご支援・ご協力を懇請申し上げます。



小林賞贈呈

開校記念講演

非破壊検査株式会社
代表取締役 社長

山口多賀司氏

「ロマンへの挑戦」という演題で講演を頂きました。

戦中戦後の動乱期の厳しい学生時代や、当時の本校の様子等、興味深い話が盛りだくさんありました。仕事の内容は非破壊検査という特殊な検査で、文字通り物体を破壊しないまま、放射線や超音波により内部の状態を調べる方法です。航空機の見えない部分の金属疲労を発見する等、事故につながる欠陥を未然に防止する最先端の技術です。

講演は静かな口調のなかにも威厳があり、説得力のある内容でした。話が進むにつれて本来ならばさわがしくなる会場も、自然に講師の話の聞きになるようになってきました。

現在の技術国日本に大きな影響を与え、その礎になったともいえる山口氏の講演はまさに今の高校生にロマンを教えてくれたように思います。

感動したという生徒がたくさん居ました。開校記念日にふさわしい講演だったと思います。



プロフィール

昭和二十三年

桐生工業高校色染化学卒業

昭和二十九年

工学院大学工業化学科卒業

極栄産業（株）入社

昭和三十二年

非破壊検査（株）設立

代表取締役専務

昭和五十一年

代表取締役社長に就任

昭和六十二年

科学技術庁長官賞受賞

総会・支部設立報告

平成四年五月二十七日桐生市産業文化会館「鶴の間」で開催されました。

新役員紹介

副会長

今年度は役員改選期でありました。経歴豊かな五十嵐会長さん副会長さん方を初め、新たに三名の副会長さんと七名の常任幹事さんをお迎え致しまして強力な本部組織となることができました。

新規事業であります、第一回親善ゴルフ大会のご審議頂き、各支部のご協力を得まして実行委員会の発足を致し開催が決定致しました。校歌等のCD制作も議決され、先輩方の足跡を在校生が認識と理解して母校愛の一役になればと思われます。

- 平賀 彰之 (二四・五D)
 - 木村 広治 (二六 W)
 - 北川藤一郎 (二九 M)
 - 船越 二郎 (三〇 M)
 - 後藤 隆造 (三一 W)
 - 八木橋祥价 (三三 W)
 - 栃木 利雄 (三三 D)
 - 細谷 昌弘 (三四 W)
 - 森島 通亘 (三五 W)
 - 清水 勝郎 (三七 M)
- (敬称略)

総会のご案内は、桐生市内のクラス幹事さんが八十六%です。今年度より支部經由で開催のご案内を全会員の皆さんに行き渡る様にお願ひ致しました。今後共々協力お願い申し上げます。

副会長の各氏



副会長の各氏



桐工同窓会十八支部設立

十八支部長 津久井 弘

残暑ようやくおとろえた今日この頃同窓会各位におかれましてはますますご壮健のこととお慶び申し上げます。

同窓会十八支部も会員の皆さんのご協力を得て平成四年八月二十二日(土)午後六時三十分桐工高同窓会十八支部設立総会が開催された。

場所は広沢町一丁目魚仙会館で支部名決定や支部規約、支部活動計画が全参加者の賛同を得て承認された。

同窓会長の五十嵐健雄さん、同窓会事務局長の中里昌明先生のご挨拶をいただき、にぎ

にぎしく懇親会に入り自己紹介を終り、日頃きたえたカラオケを歌った。印象的であったのは久しぶりに同窓会諸君と声高らかにうたった校歌であった。「朝日輝く妙なる色に、染なし匂う工の技を修め究めん、我等ののぞみ桐生工業桐生工業」この会が盛大に開催出来たのは最初からお世話をお願いした事務局長の井上和三君のおかげであり、衷心より感謝を申しあげたいと思います。

桐工高同窓会十八支部

- 会長 津久井 弘
- 副会長 小島 嘉一
- 事務局長 井上和 三
- 会計 鶴川 昭八



第十八支部設立総会

笠懸支部結成経過

桐工同窓会笠懸支部結成の話を受けたのが今年五月、そしてその話を持って来て下さった桐工教諭横尾先生の御骨折により、六月十六日最初の発起人会(三名)を行う、そこで笠懸町在住の同窓会員、なんと七百人も居ると聞き、たゞ驚くばかり。笠懸町の行政区は十区ある為、各一人、約十人の発起人の人選を行う。七月六日都合をつけてもらった約十人にて、本格的な発起人会を行い、横尾先生にたのみ本部へ提出する。八月二十四日、拡大発起人会開催、幹事候補者の選定並びに会員名簿の作成、そして支部設立総会日程、場所時間、全役員による支部設立総会準備会議日程を決める。

九月十一日、支部設立総会準備役員会、幹事候補二十七名中十三名出席、支部規約、役員等の原案作成、支部名簿、支部設立総会案内状の作成、発送の準備等協議し、十一月一日の設立総会へ向けて、第一歩を踏み出す。松井陽一

第一回 同窓会 親善ゴルフ大会

同窓会主催による第一回のゴルフ大会が、八月二〇日、城山カントリークラブを会場にして盛大に行なわれました。大会は、十六の各支部、本部から各六名の選手が出場し、上位五名の成績によつて順位が競われました。又、十名のオープン参加もあり、総数で一〇〇名以上の大コンペになりました。

大会役員

大会会長	五十嵐健雄
大会副会長	周藤 晴二
〃	新井庫太郎
〃	平賀 彰之
〃	北川藤一郎
〃	小林 季二
〃	亀山 憲明
〃	腰塚 誠
〃	星野 常男
〃	下山 蔵司
〃	池田 光二
〃	木村 広治
〃	石関 二六
〃	森田 良徳
〃	小保方英児
〃	前原 広光
〃	井沢 一彦
〃	川上 賢一
〃	滝沢 桂次
〃	平野 武三
〃	村田 永昌
〃	鈴木 康弘
〃	会田 俊夫
〃	桑原 正弘
〃	中野幸三郎
〃	矢田 昭治
〃	高松 理祐
〃	周東 英次
〃	柿沼久太郎
〃	松井 賢一
〃	糸井徳三郎
〃	高木 文男

大会成績

優勝	第十一支部
準優勝	第八支部
〃	第四 五支部
〃	第十五支部
〃	第十六支部
〃	第六支部
〃	第九支部
〃	第十支部
〃	第十三支部
〃	第十二支部
〃	第七支部
〃	第一支部
〃	第十四支部
〃	本 部
〃	第十七支部
〃	第十八支部



下山蔵司実行委員長

優勝 第十一支部

中里文雄	九九	二一、六	七七、四
岡村慶男	八三	一〇、八	七二、二
氏原宏文	八六	一三、二	七二、八
大熊貞男	一〇〇	二六、四	七三、六
福田喜一郎	九〇	一六、八	七三、二
飯田孝一	八〇	八、四	七一、六
ネット合計		三六三、四	

準優勝 第八支部

青木重雄	九一	一八	七三
前原廣光	七五	一一	七三、八
小保方英児	七三	〇	七三
関山保夫	八三	一〇、八	七二、二
高峰孝三	七九	四、八	七四、二
ネット合計		三六六、二	



優勝した十一支部



準優勝した第八支部

三位 第四・五支部

遠坂伸司 二〇、四 七三、六

野間義一 八九 一四、四 七四、六

村田永昌 八二 八、四 七三、六

石内 宏 九九 二五、二 七三、八

森田良徳 七四 一、二 七二、八

ネット合計 三六八、四

個人の部

優勝 津久井弘 (十八支部)

二位 鈴木克彦 (七支部)

三位 中野幸三郎 (十支部)

四位 井上修一 (オープン)

五位 田島義弘 (本部)

六位 園田徳司 (十五支部)

七位 飯田孝一 (十一支部)

八位 鈴木成一 (六支部)

九位 森下清秀 (十四支部)

十位 井沢一彦 (十支部)

グロスの部

一位 小保方英児 七三

二位 森田 良徳 七四

三位 前原 廣光 七五

四位 石原 文男 七五

五位 安蔵 達也 七五

個人優勝の津久井氏



各賞の部

ベストグロス 小保方英児

ブービー 平賀 彰之

ドラゴン 関山 保夫

ニアピン 田島 孝宏

森田 良徳

初谷 幸一

石関 二六

前田 登

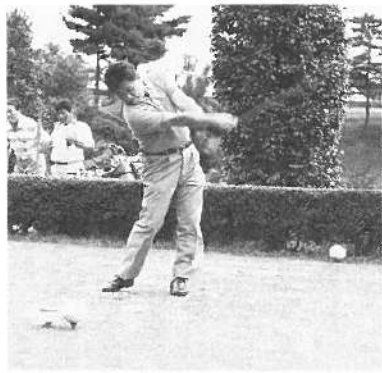


第一回の大会だけに、本部事務局とも不安の運営でしたが予想以上の大盛会になり、満足しております。支部によつては、予選大会を行ない、本大会のメンバーを選出したという経過もあるようでした。優勝した十一支部は、平均ネット 七二、六八という素晴らしいスコアでした。

又、今大会最下位の十八支部に個人優勝を果たした、津久井氏が居たということも話題の一つになっていました。初めての試みということもあつて、不参加の支部もありましたが、大成功の大会であつたと思ひます。来年は近効に新しい支部が結成される動きもでております。第二回大会も盛大に開催できるよう期待しております。

また、今大会最下位の十八支部に個人優勝を果たした、津久井氏が居たということも話題の一つになっていました。初めての試みということもあつて、不参加の支部もありましたが、大成功の大会であつたと思ひます。来年は近効に新しい支部が結成される動きもでております。第二回大会も盛大に開催できるよう期待しております。

また、今大会最下位の十八支部に個人優勝を果たした、津久井氏が居たということも話題の一つになっていました。初めての試みということもあつて、不参加の支部もありましたが、大成功の大会であつたと思ひます。来年は近効に新しい支部が結成される動きもでております。第二回大会も盛大に開催できるよう期待しております。



ベストグロスの小保方氏



三位になった四・五支部



クラス会だより

秋晴れの平成三年十月十九日午後、クラス会の前に卒業以来四十三年七月ぶりに母校を見学しようと三三五母校に集合した。顔を合わせる度に「やあしばらく」「元気が」と互いに手を取りあつて早速想い出話を花を咲かせる。なかには「誰だつたかなあ」と想い出すまでに時間のかゝる顔もあった。町田教頭のご挨拶をいたゞき、同窓会事務局の中里先生の案内にて実習設備を見学する。

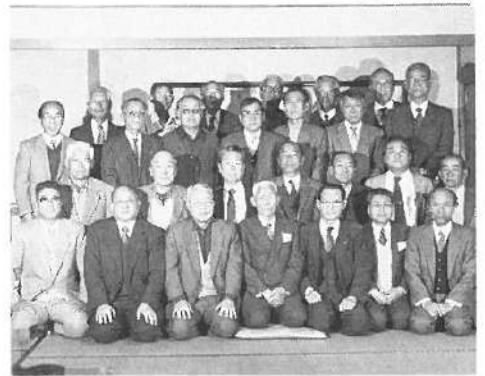
胸にしなから懇親会場の白滝荘に向かう。午後六時三十分正田先生、星野先生、五十嵐同窓会長を迎えてクラス会が開催された。遠く岡山県よりの白石君、岐阜県よりの堂前君、まさに二十三年三月卒業以来の顔もあつて一瞬のうちに「俺・お前」の学生時代にかえり、たゞ懐かしさに感激一杯。

懇親会後は各部屋に数人ずつ宿泊、寝ころびながら学生時代のこと、社会人としての苦勞話、はては現状から将来のことなど夜の更けるのを忘れて語り合った。

四十三年ぶりの母校

昭和23年 紡織科卒 米山 稔

私達の在学中（昭十八〜二十三）と異なり、すっかり近代化され、コンピュータやロボットの実習にびつくり、その操作を見つめる顔、顔は真剣そのものであった。こんな立派な校舎や設備で勉強出来る後輩達は幸せだ。しつかり頑張つて欲しい。こんなことを



「緑桐会」盛會りに

定時制第一回生

砂 孟 宏

私達のクラスは昭和十九年に第二本科機械科の第一回生として七十二名が入学した。当時は戦時中から終戦後にかけての激動の時代であり、衣食住をはじめ学業の環境条件は劣悪であった。その中で各自、昼間は工場などで働き夜は幾多の困難を克服しながら学習に取組んだ。なかには志願兵になったり、終戦直後の混乱期に他へ転ずることを余儀なくされた者も多かった。

卒業後四十数年を経過し、いつのまにか還暦も過ぎ、クラス会もしばらく間があいてしまったので、この際、クラス名簿の整備を兼ねて同窓生全員に呼びかけてはとうこうことになった。そして、中里・小林・砂孟の三名が発起人となり、平成三年二月十六日に美喜仁ビルを会場としてクラス会（緑桐会）を開催した。一年のときの恩師かくしゃくとした諏訪要先生のご臨席を得て、二十六名のなつかしい級友が東京・横浜・埼玉や県内各地から参集した。今は亡き加賀山校長先生、担任の田島孝夫先生はじめ級友九名の物故者のご冥福をお祈りし、母校の発展と先生・級友全員のご健勝を祈念し、時間がたつのも忘れて旧交をあたためることができた。なお次回は平成五年を予定し散会した。

美喜仁ビル

胸に秘め久し振りに健在を誇る面々二十二名が幹事の周東二郎、福島昭吉両君の尽力により平成四年二月二十九日、太田市平安閣に集結し盛大に同窓会を開催致しました。

特に、出征に当り同級生から贈られた、武運長久の国旗には頭が下がり、昔を語り合ひ暫し懐かしさで深夜に至る迄時の経つのを忘れさせてくれました。現在の健康を喜び合ひ、今後の健勝を祈り合ひ、再会を誓い合つて、校歌を声高らかに合唱し、万歳を三唱し、会致しました。

「七色会」開かれる

昭和20年色染科卒業生

小林純三郎

終戦間近の昭和二十年三月、第七回色染科卒業生の多くの者は軍人及び軍関係の学校へ進み二十数名の卒業式でありました。この思い出を



平安閣（太田）

桐工七色会同窓会記念 平成4年2月29日 太田平安閣にて

学校だより

体操部

顧問 梶岡睦朗

体操競技は男子六種目、女子は四種をこなさなければならぬ、強靱な精神力と筋力、巧緻性、敏捷性等々が要求され、全種目をそつなく演技し観る者に感動を与えなければならぬ総合力を要求される競技種目である。

さて、桐生工高の体操部をみると、除々にはある



が生徒の日頃の練習の成果が実りつつある。今年度を振り返ってみても初めての団体での関東大会出場、インターハイ二名出場、国体出場などみるべき成績を残している、これも生徒同志励ましあひ努力してきたことがこのような結果として残ったものと思う。

今後の体操界は、更に高難度で、且、雄大、佳麗、独創的な演技が要求される事と思うが、鋭意研究し、少しでも上位を目指して、生徒達は日夜練習を重ねてくれることを願うものである。

自転車競技

監督 桜井敏弘

同窓生の皆様方には、自転車競技に対し御支援、御協力を頂きありがとうございます。

本校では、昭和六十二年より始めた比較的新しい部活のため、知名度がありません。しかし、今年で六年目を迎えたわけですが、活躍は他の部



に負けてはいません。六年連続関東大会出場（入賞三回）。初年度こそ出場できませんでしたが、五年連続全国大会出場ができました。

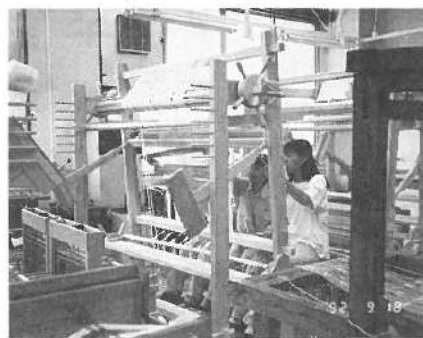
ただ現在の三年生が卒業しますと、部員がいまません。休部になると思いますが、残念です。来年度以後の入部を期待したいと思えます。そのときは同窓生の御声援をよろしくお願いします。



「染織デザイン科」

残念ながら色染化学科、繊維工学科（旧紡織科）は来年平成五年三月に最後の卒業生を送り出します。

手織り実習



本校創立以来六十年の色染・繊維の伝統を引き継ぎつつ最新技術を取り入れた「染め」「織り」「デザイン」を学び、染織デザイン科が昨年の四月に誕生しました。

染織デザイン科は、施設の全面改修を行い、新設備の導入により卓上織機・手なつ染など手工芸的なことから、織物用画像処理装置（五台）、コンピュータカラーマッチング（CCM）、フルカラー複写機運動のデザインシステム等、最先端技術を駆使した学習を行っています。

デザインシステム



二学年、八十二名中三十七名と女子生徒が多くなりましたが、地域産業に役立つ技術者が巣立つことと思えます。

紋織物用画像処理実習



事務局

だより

しております。

今日までの同窓会活動の多くは、各クラス会が主流で横断的でありましたが、ここ数年桐生地区に支部設立を頂きまして、支部総会又は総会と少しづつ変化をさせて頂きました。

昨年度より、各支部のお骨折りを有機的に活動に生かさないものと役員さん方にご協議お願い致しまして、新規事業を計画致しました次第です。

ゴルフ大会については、今後各支部で予選等を頂く中で支部の活性化と発展が頂ければ幸いに存じます。

CD作成に当たり本校職員の献身的ご協力によりまして「数え歌」の収録を実施する事ができました。

支部設立につきましても、今年度より市外地区で設立を頂き「輪」が膨らみます。

「織都」桐生に相応しい絛糸と緯糸の織りなす模様のように素晴らしい先輩の下、会員さんの「一体化」にお役に立てればと事務局員一同活躍致

応援歌

一 あふれる力かききる血潮

栄冠高く誇りとみちみち

今こそ立ち上がりわかれず

フレフレ桐生工業

二 仰ぐ赤城嶺理想はもて

清き流れに目頃よたれ

おおいしく登く登田わんわん

フレフレ桐生工業

三 伝統輝く桐生を立

優勝の旗朝日に映ゆ

ああその野やゆかり男児

フレフレ桐生工業



群馬県立桐生工業高等学校



九月二十五日、同窓会CDに収録するための「桐工数え歌」の録音が、同窓会館「桐雷会館」で行われました。録音は業者が行いましたが、歌とバンドは本校職員が担当しています。

これでCDに収録を予定していた、校歌、応援歌、数え歌の録音がすべて終了し、十二月には発行の予定となりました。

今回のCD制作の総監督でもあり桐工応援歌の作曲者の川崎先生(三三T.M)も「若い人たちが頑張ったからいいものが出来た。」と高く評価されていました。

お知らせ

同窓会CD「校歌集」を御希望の方は同窓会事務局まで申し込み下さい。頒布価格二千円 (送料込み)

職場に同窓会支部結成

さる六月、職域同窓会第一号として、広沢町の加藤鉄工さんの中に「桐工会」が設立されました。

卒業生数

平成四年三月現在(含附中) 全日制色染・色染化学科

機械科	二、五三二名
電気科	三、六五六名
土木科	二、七二六名
建設・建築科	七八五名
定時制機械科	一、二二八名
染織・繊維科	一、二二六名
電気科	六四七名
合計	四八二名
合計	一五、四一〇名

編集後記



今年と同窓の小林校長を迎え、学校行事並びに同窓会活動に、新しい企画を行うと共に、同窓諸兄の協力により、第四号桐雷を発行することが出来ました。新しい事業として、第一回親善ゴルフ大会を行い、全支部参加と云う大盛況のことも、第四号桐雷の内容を一層にぎやかにする記事となりました。そしてクラス会その他たくさんの方の原稿を寄せて頂き、感謝すると共に、出来る丈たくさんの方の記事をのせることにしました。写真をカラーでと云うことも検討しましたが、やはり予算都合もあり、次の機会と云うことにしました。桐雷も四号を数え諸兄に期待をもちたいのですが、今回記事の見出しをたのしくなる様変えてみました、より多くの人に親しまれることを期待いたします。